

<今日の説教のポイント コリントの信徒への手紙 I 9章 19-23 節>
キリストを知る信仰によって持てるようになる驚くべき自由さ！

①パウロの最大使命は、全ての人を福音に導くこと！

この箇所は最後に語っている言葉から考えると理解しやすい箇所です。
「何とかして何人かでも救うためです。福音のためなら、私はどんなことでもします。それはわたしが福音に共に与るためです」(22c~23)。「福音
(good news : イエス・キリストの救い) を人に伝えることが自分の最大使命だ、そのためならどんなことでもする」と言うのですから、パウロが**福音**をどれほど大事なものと思っているかが伝わってくる言葉です。もう一つ忘れてはならないのは、「そうすることで自分自身も**福音に共に与れる**」と言っていることです。そうですね。福音を共に喜ぶ人が新たに生まれることは私たちにとっても大きな喜びを与えてくれますね。福音を人に伝えることに皆で励む教会でありたいと思います。

②パウロは八方美人なのではない。むしろ、①の点で一貫しているのだ！

ここを読んで「八方美人のような姿を示してどうして伝道ができよう」と思う人がいると思います。しかし、パウロは多くの人を真剣な信仰者に変えました。なぜか？ 彼が一切ぶれていない点があります。なんとしても福音を伝えるという点です。他の人々に合わせても、キリストが救い主だという確信は一切ぶれていないのです。キリストの福音はどんな状況の人にとっても、「これこそ、真の道だ、真理だ、命だ」(ヨハネ 14:6) ということが見えて来るものであり、私たちが守ってやらなければならないものではなく、そのためには他のものに近づけないほど柔なものではないのです。どんな人も、最後には全ての人がキリストの下に一つとなれる、それほど大きな力と恵みに満ちた方、イエス・キリストについてパウロはそういう確信を持っているのです。

③キリストを通して神の愛を知ったこと。それがパウロの根底にある！

パウロの驚くべき自由さ。そこから生まれる世界の広がり、どんな人をも批判の対象ではなく愛の対象と考えられるようになる素晴らしさ。それはパウロ自身が経験した「キリストによる神様の赦しの愛の大きさ、自由さ」から来ているでしょう。そして、「その神様が自分と共にいて下さるのだ！」という確信からです。私たちもそのような信仰を持てるように祈り、御言葉に学び続けたいと思います。(最近の新聞記事から)